

平成 20、21 年度
中期目標の達成状況報告書
(別添資料)

平成 2 2 年 6 月
大分大学

目 次

資料 1-1-1	平成 21 年度開講授業科目一覧表	1
資料 1-1-2	シラバス「里海と里山」	3
資料 1-1-3	少人数科目一覧（語学とスポーツを除く）	4
資料 1-1-4	少人数科目シラバス（情報処理入門、ものづくりの世界）	5
資料 1-1-5	教育成果に関するアンケート結果	6
資料 1-1-6	キャリア教育推進連絡会議 会議概要	6
資料 1-1-7	平成 21 年度 FD 実施状況	7
資料 1-1-8	FD 実施報告	8
資料 1-1-9	入試区分別入学者成績追跡調査報告	9
資料 1-1-10	募集定員の見直し	9
資料 1-1-11	教育課程の見直し	10
資料 1-1-12	教育課程の編成（学部・大学院の接続）	12
資料 1-1-13	ぴあ ROOM に関する新聞記事	14
資料 1-1-14	ミニ FD の内容	15
資料 1-1-15	ぴあ ROOM 利用状況	16
資料 1-1-16	平成 21 年度学生支援の状況	17
資料 2-1-1	総合臨床研究センターホームページ	18
資料 2-1-2	国際交流協定校一覧（アジア関係のみ）	19
資料 2-1-3	ピロリ菌国際会議	19
資料 2-1-4	全学研究推進機構図	20

資料 2-1-5	平成 21 年度大分大学ステークホルダー・ ミーティング報告書	20
資料 2-1-6	全学研究推進機構採択プロジェクト	21
資料 2-1-7	科学技術総合推進費補助金交付決定通知書	22
資料 2-1-8	研究者海外派遣基金助成金交付決定通知書	22
資料 2-1-9	国際交流・学術振興基金の見直し状況	23
資料 2-1-10	平成 20・21 年度の経済学部久保奨学基金の予算額 ・・・・・・・・・・・・・・・・	23
資料 3-1-1	福祉のまちおこし研究事業 平成 21 年度事業報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・	24
資料 3-1-2	大分大学「平成 21 年度 MOT（技術経営）講座」一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・	25
資料 3-1-3	豊の国ものづくり展開催概要	26
資料 3-1-4	産学官連携戦略展開事業（戦略展開プログラム） シンポジウム	26
資料 3-1-5	学生・研究生等の派遣・受入状況	27
資料 3-1-6	学長表彰	28

資料 1-1-1：平成 21 年度開講授業科目一覧表

区分	主題	授業科目	担当教員 氏名(所属)	単 位	対 象	学 期	限	備 考	履 修 単 位
Ⅰ	基礎的・専門的知識の習得	思考と論理	2 神崎・大岩(教)	人文 前 月 2	2 大岩(工)	自然	1	対称学部は教育福祉科学部、経済学部、工学部は専攻別授業科目を参照。 ※開講レベル	28
		アカデミックスキル(調査法入門)	2 尾澤(高教)	総合 前 月 2	2 森(教・非)	自然	2	対称学部は教育福祉科学部、経済学部、工学部は専攻別授業科目を参照。 ※開講レベル	32
		生涯学習入門	2 岡田(高教)	社会 前 月 2	2 船尾(工)	自然	4	対称学部は教育福祉科学部、経済学部、工学部は専攻別授業科目を参照。 ※開講レベル	38
		性格への関心	2 黒川(教)	人文 前 月 1	2 山下(教)	自然	火	2	42
		心理学の初歩	2 深尾(教)	人文 前 月 1	2 仲野(教)	自然	水	3	75
		自己理解と自己形成	2 深尾(教)	総合 前 月 1	2 高橋(教)	総合	前 金	2	96
		社会教育から見た「教育の発展」	2 中川(高教)	総合 前 月 1	2 大岩(工)	自然	金	2	97
		大分大学の人と空間	2 西村・岡田・尾澤(高教)	総合 前 月 1	2 大岩(工)	自然	金	2	99
		くらしの心理学	2 藤田・古地(教)	総合 前 月 2	2 大岩(工)	自然	金	2	105
		プロジェクティブ学習入門	2 尾澤(高教)	総合 前 月 2	2 大岩(工)	自然	金	2	106
Ⅱ	基礎的・専門的知識の習得	社会認識と自己形成	2 山井(教)	人文 後 月 2	2 大岩(工)	自然	火	1	114
		キャリアデザイン入門	2 尾澤(高教)	総合 後 月 2	2 大岩(工)	自然	火	1	117
		成人教育方法入門	2 中川(高教)	社会 後 月 2	2 大岩(工)	自然	火	1	118
		仕事と社会	2 石井(教)	社会 後 月 2	2 大岩(工)	自然	火	1	119
		職業とキャリア開発	2 藤田・古地(教)	総合 後 月 2	2 大岩(工)	自然	火	1	120
		大分大学の人と空間(オンデマンド)	2 西村・岡田・尾澤(高教)	総合 後 月 2	2 大岩(工)	自然	火	1	121
		青年の心	2 西村(教)	人文 後 月 3	2 大岩(工)	自然	火	1	122
		クラフト	2 市原(高教)	人文 後 月 3	2 大岩(工)	自然	火	1	123
		芸術と文化	2 田井(教)	人文 前 月 1	2 大岩(工)	自然	火	1	124
		文化芸術の発展	2 佐藤・久間・内田(教)	人文 前 月 2	2 大岩(工)	自然	火	1	125
Ⅲ	基礎的・専門的知識の習得	パロロンの世界	2 松田・高橋(教)	人文 前 月 2	2 大岩(工)	自然	火	1	126
		西洋美術史概論	2 田中・佐藤(教)	人文 前 月 3	2 大岩(工)	自然	火	1	127
		図像の世界	2 高橋(教)	人文 前 月 2	2 大岩(工)	自然	火	1	128
		音楽の世界	2 田中・佐藤(教)	人文 前 月 2	2 大岩(工)	自然	火	1	129
		音楽の楽しみ	2 田中・佐藤(教)	人文 前 月 2	2 大岩(工)	自然	火	1	130
		音楽の楽しみ	2 田中・佐藤(教)	人文 前 月 2	2 大岩(工)	自然	火	1	131
		音楽の楽しみ	2 田中・佐藤(教)	人文 前 月 2	2 大岩(工)	自然	火	1	132
		音楽の楽しみ	2 田中・佐藤(教)	人文 前 月 2	2 大岩(工)	自然	火	1	133
		音楽の楽しみ	2 田中・佐藤(教)	人文 前 月 2	2 大岩(工)	自然	火	1	134
		音楽の楽しみ	2 田中・佐藤(教)	人文 前 月 2	2 大岩(工)	自然	火	1	135
Ⅳ	基礎的・専門的知識の習得	音楽と文化	2 田中・佐藤(教)	人文 前 月 2	2 大岩(工)	自然	火	1	136
		音楽と文化	2 田中・佐藤(教)	人文 前 月 2	2 大岩(工)	自然	火	1	137
		音楽と文化	2 田中・佐藤(教)	人文 前 月 2	2 大岩(工)	自然	火	1	138
		音楽と文化	2 田中・佐藤(教)	人文 前 月 2	2 大岩(工)	自然	火	1	139
		音楽と文化	2 田中・佐藤(教)	人文 前 月 2	2 大岩(工)	自然	火	1	140
		音楽と文化	2 田中・佐藤(教)	人文 前 月 2	2 大岩(工)	自然	火	1	141
		音楽と文化	2 田中・佐藤(教)	人文 前 月 2	2 大岩(工)	自然	火	1	142
		音楽と文化	2 田中・佐藤(教)	人文 前 月 2	2 大岩(工)	自然	火	1	143
		音楽と文化	2 田中・佐藤(教)	人文 前 月 2	2 大岩(工)	自然	火	1	144
		音楽と文化	2 田中・佐藤(教)	人文 前 月 2	2 大岩(工)	自然	火	1	145

(出典：「教養教育科目ガイドブック平成 21 年度版」から抜粋)

資料 1-1-1：平成 21 年度開講授業科目一覧表

区分	分野	コアカタログ	授業科目	対教学部	単位	担当教員名	学期	曜	限	分野	備考	掲載頁
Ⅳ	ゼミナール	英語ゼミナール	英語ゼミナール5	教・経・工	2	中瀬 (経)	後	木	2	人文	2 年次生以上対象	181
			英語ゼミナール6	教・経・工	2	河上 (経)	後	水	2	人文	〃	182
			英語ゼミナール7	教・経・工	2	重 (経)	前	水	2	人文	〃	183
			英語ゼミナール9	教・経・工	2	ハラノ (工)	前	金	2	人文	〃	184
			英語ゼミナール12	教・経・工	2	松田 (工)	後	金	2	人文	〃	185
			英語ゼミナール18	教・経・工	2	御手洗 (教)	前	金	2	人文	〃	186
			英語ゼミナール19	教・経・工	2	御手洗 (教)	後	金	2	人文	〃	187
			応用ドイツ語Ⅰ	教・経・工	2	池内 (教)	前	水	2	人文	〃	188
			応用ドイツ語Ⅱ	教・経・工	2	池内 (教)	後	水	2	人文	〃	189
			応用ドイツ語Ⅲ	教・経・工	2	安岡 (経)	前	金	2	人文	〃	190
Ⅴ	ゼミナール	英語ゼミナール	英語ゼミナール10	教・経・工	2	佐々木 (教)	後	月	3	人文	〃	191
			英語ゼミナール11	教・経・工	2	佐々木 (教)	前	月	3	人文	〃	192
			英語ゼミナール13	教・経・工	2	安岡 (経)	前	火	2	人文	〃	193
			英語ゼミナール14	教・経・工	2	池内 (教)	前	火	2	人文	〃	194
			英語ゼミナール15	教・経・工	2	池内 (教)	後	火	2	人文	〃	195
			英語ゼミナール16	教・経・工	2	佐々木 (教)	後	月	3	人文	〃	196
			英語ゼミナール17	教・経・工	2	池内 (教)	後	火	2	人文	〃	197
			英語ゼミナール18	教・経・工	2	安岡 (経)	前	水	2	人文	〃	198
			英語ゼミナール19	教・経・工	2	安岡 (経)	後	水	2	人文	〃	199
			英語ゼミナール20	教・経・工	2	コモン (非)	前	火	2	人文	〃	200
Ⅵ	ゼミナール	英語ゼミナール	英語ゼミナール21	教・経・工	2	コモン (非)	後	火	2	人文	〃	201
			英語ゼミナール22	教・経・工	2	森川 (経)	前	水	2	人文	〃	202
			英語ゼミナール23	教・経・工	2	森川 (経)	後	水	2	人文	〃	203
			英語ゼミナール24	教・経・工	2	郷 (経)	前	金	2	人文	〃	204
			英語ゼミナール25	教・経・工	2	郷 (経)	後	金	2	人文	〃	205
			英語ゼミナール26	教・経・工	2	田 (非)	前	火	2	人文	〃	206
			英語ゼミナール27	教・経・工	2	田 (非)	後	火	2	人文	〃	207
			英語ゼミナール28	教・経・工	2	田 (非)	前	水	2	人文	〃	208
			英語ゼミナール29	教・経・工	2	田 (非)	後	水	2	人文	〃	209
			英語ゼミナール30	教・経・工	2	田 (非)	前	火	2	人文	〃	210
Ⅶ	ゼミナール	英語ゼミナール	英語ゼミナール31	教・経・工	2	田 (非)	後	火	2	人文	〃	211
			英語ゼミナール32	教・経・工	2	田 (非)	前	火	2	人文	〃	212
			英語ゼミナール33	教・経・工	2	田 (非)	後	火	2	人文	〃	213
			英語ゼミナール34	教・経・工	2	田 (非)	前	火	2	人文	〃	214
			英語ゼミナール35	教・経・工	2	田 (非)	後	火	2	人文	〃	215
			英語ゼミナール36	教・経・工	2	田 (非)	前	火	2	人文	〃	216
			英語ゼミナール37	教・経・工	2	田 (非)	後	火	2	人文	〃	217
			英語ゼミナール38	教・経・工	2	田 (非)	前	火	2	人文	〃	218
			英語ゼミナール39	教・経・工	2	田 (非)	後	火	2	人文	〃	219
			英語ゼミナール40	教・経・工	2	田 (非)	前	火	2	人文	〃	220
Ⅷ	ゼミナール	英語ゼミナール	英語ゼミナール41	教・経・工	2	田 (非)	後	火	2	人文	〃	221
			英語ゼミナール42	教・経・工	2	田 (非)	前	火	2	人文	〃	222
			英語ゼミナール43	教・経・工	2	田 (非)	後	火	2	人文	〃	223
			英語ゼミナール44	教・経・工	2	田 (非)	前	火	2	人文	〃	224
			英語ゼミナール45	教・経・工	2	田 (非)	後	火	2	人文	〃	225
			英語ゼミナール46	教・経・工	2	田 (非)	前	火	2	人文	〃	226
			英語ゼミナール47	教・経・工	2	田 (非)	後	火	2	人文	〃	227
			英語ゼミナール48	教・経・工	2	田 (非)	前	火	2	人文	〃	228
			英語ゼミナール49	教・経・工	2	田 (非)	後	火	2	人文	〃	229
			英語ゼミナール50	教・経・工	2	田 (非)	前	火	2	人文	〃	230

(出典：「教養教育科目ガイドブック平成 21 年度版」から抜粋)

授業科目名 (科目の英文名)						区分・分野・コア
里海と里山～水辺から考える持続可能な地域社会～ (The Relationship between the Coastal Sea and the Country-side.)						全学共通科目 総合
必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1・2・3・4	全	後期	集中	川野田実夫(教育福祉科学部)他 内線: 7657 E-mail: ich@cc.oita-u.ac.jp
【授業のねらい】 大分県沿岸のサンゴ等海洋生物の現状と、内陸の緑地環境の関連を理解するとともに、自然環境やそこで生活する人々との交流を通じて、地域づくりや地球規模での共生社会について実態的に理解を深めます。さらに海上巡検、地域における交流や活動支援、集団学習の体験を通じて、学生相互に、また地域の人々と共に学びあいます。						
【具体的な到達目標】 1.自然と他者との共生、循環型社会、持続可能な社会など基礎的知識を習得するとともに、専門学習を深めるきっかけとします。 2.グループ・集団での学習・生活など大学における基盤的な勉強法の習得をめざします。 3.地域の人々との交流により社会生活上の基本的な関係のあり方も学びます。						
【授業の内容】 1 ガイダンス (1/29 12.30- 教養教育棟第一大講義室) 2～4 おおい学生水フォーラムへの参画 (大分市文化会館第二小ホール 2/13土曜日午後13時～18時) 5～8 里海と里山の関係とそれぞれの地域づくり (2/19 午前9時～16時半 教養教育棟第一大講義室) 9～13 体験学習と自然観察巡検: 佐伯市蒲江・マリンカルチャーセンターでの合宿、海上巡検 (2/20-21土日一泊二日) 参加費: 1500円程度 11時半大分大学教養教育棟出発→蒲江 13時蒲江→15時大分大学着 14～15 水と緑の環境人材養成: 大分市の水辺における自然観察学習 (2/28日曜日9時半～14時半)						
【時間外学習】						
【教科書】						
【参考書】						
【成績評価の方法及び評価割合】 授業・体験活動における取り組み状況 (各授業や体験活動での発言など参加態度とレポート)						
【注意事項】 学外での地域体験活動 (学外巡検, フォーラム, 合宿実習) に比重があります。						
【備考】 2/20-21合宿参加費1500円程度						

(出典: 平成 21 年度シラバスから抜粋)

資料 1-1-3：少人数科目一覧（語学とスポーツを除く）

平成 21 年度少人数科目（語学とスポーツを除く）

（前学期）

曜日	時 限	時間割 コード	開講科目名	担当教員名	担当教員所属	対象学部	教室	教福	経済	工学	医学	計
月	2	A10009	思考と論理	神崎 英紀		教・経	情報教育システム室	16	13	0	0	29
月	2	A10010	アカデミックスキル（調査法）	尾澤 重知		教・経	教養教育棟 3 2 号	10	6	2	0	18
火	1	A10021	クラフト	富田 礼志		教・工	美術講義室	7	0	21	0	28
火	1	A10026	地域と財政	井田 知也	経	教・工	教養教育棟 2 4 号	5	5	13	0	23
水	2	A10058	ものづくりの世界	池崎 八生		教・経・医	金属加工実習室	3	6	0	1	10
水	2	A10061	医療人間科学	西 英久		教・経・工・医	教養教育棟 2 1 号	1	22	2	0	25
水	2	A10066	情報処理入門	本城 信光		経・工・医	教養教育棟 L L 教室	0	7	17	16	40
水	3	A10082	情報処理入門	本城 信光		経・工・医	教養教育棟 L L 教室	0	2	21	16	39
木	2	A10096	情報処理入門	本城 信光			情報基盤センター第 1 実習	0	2	36	0	38
木	2	A10098	表現技術	金森 由美			経第 12 演習室	10	5	1	0	16
木	5	A10138	情報処理入門	山下 茂			情報基盤センター第 1 実習	13	0	0	0	13
金	2	A10111	プロジェクト型学習入門	尾澤 重知		教・経	教養教育棟 3 2 号	5	14	2	0	21

（後学期）

曜日	時 限	時間割 コード	開講科目名	担当教員名	担当教員所属	対象学部	教室	教福	経済	工学	医学	計
月	2	A00013	身近な科学実験	芝原 雅彦		教・経	教養教育棟 1 2 号	16	8	0	0	24
月	2	A00014	電気の世界 I	榎園 正人	工	教・経	教養教育棟 2 3 号	1	7	0	0	8
月	2	A00017	エレクトロニクスの世界 I	益子 洋治	工	教・経	教養教育棟 1 4 号	5	18	0	0	23
月	2	A00020	植物細胞工学	泉 好弘		教・経	教養教育棟 2 1 号	6	14	0	0	20
火	1	A00023	機械の世界	劉 孝宏	工	教	機械製図室	26	0	0	0	26
火	1	A00026	情報処理入門	本城 信光		工	教養教育棟 L L	0	0	27	0	27
火	1	A00045	化学物質と環境影響	吉岡 義正		教・工	教養教育棟 1 4 号	3	1	11	0	15
水	2	A00068	情報処理入門	本城 信光		経・工・医	情報基盤センター第 1 実習	0	0	17	1	18
水	3	A00081	情報処理入門	本城 信光		経・工	教養教育棟 L L	0	3	23	1	27
木	2	A00095	情報処理入門	本城 信光		経・工	情報基盤センター第 1 実習	0	2	29	0	31
木	2	A00101	アートアニメーションの実践	廣瀬 剛		経・工	美術講義室	0	8	11	0	19
木	2	A00105	会計と社会	中村 美保	経	経・工	教養教育棟 3 2 号	0	16	8	0	24
木	2	A00107	物理学への招待	長屋 智之	工	経・工	教養教育棟 1 3 号	0	3	16	0	19
木	2	A10140	地域貢献活動 一個から地域	倉持 香苗		経・工	教養教育棟 3 1 号	0	22	7	0	29
木	2	A10144	情報処理入門	吉岡 孝	工		情報基盤センター第 3 実習	0	0	23	0	23
金	2	A00131	数学の世界	川崎 道広		教・経	教養教育棟 1 1 号	5	8	1	0	14
金	2	A00134	教養としてのコンピュータ	谷野 勝敏		教・経	教養教育棟 1 4 号	7	17	0	0	24
金	2	A10141	統計学入門	甲斐 隆文	経	教・経	経済 301 号	2	20	0	0	22

（出典：平成 21 年度少人数科目一覧から抜粋）

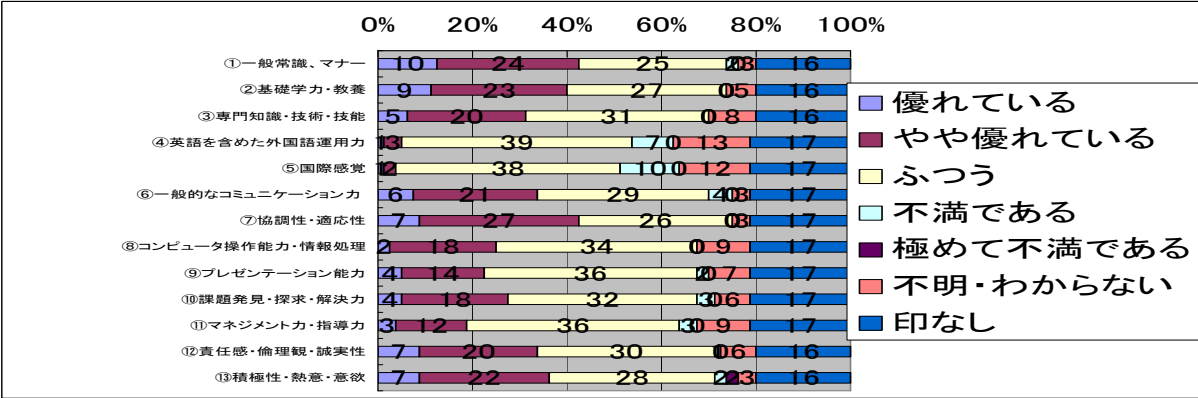
授業科目名 (科目の英文名) ものづくりの世界 (Introduction to Manufacturing)				区分・分野・コア 全学共通科目 自然	
必修 選択	単位 2	対象 年次 1・2・3・ 4	学 部 数・経・医 水2	学 期 前期	曜・限 内線 E-mail : ikezaki@cc.otta-u.ac.jp
担当教員 池崎人生					
【授業のねらい】 ものづくりは本来、人間の喜びでなければならぬ。しかし、現実の社会では、大量生産とそれに引き続く安易な大量消費によって、ものをつくる喜びや、それを使うことの充足感など感じる余裕のない、物質文明におけられていく。幸い、句のほてには、ものづくりの生産現場は3Kなどと言われ、嫌われている始末である。ものをつくることの喜びや大変さを知ることが、安易な消費に拍車をかけることにもなる。 この授業では、手仕上げと機械加工を中心に、ものづくりを体験すること、つまり、実際に体験することが一番である。そこで、ものづくりの楽しさ、喜びを理解してもらい、同時に、なぜ3Kなのかなど課題に加え、実習・実験を通して体験し、ものづくりの授業で対象とする学生は文系を専攻し、実際にこれまで手作業で加工などしたことはないが、ものづくりに興味のある学生を対象としている。施設設備の関係で受講生は10人とする。					
【具体的な到達目標】 1. 役立つものを作るための基礎技術の習得 2. ものの形や機能がどのようにして付加されるかを思考することができる。 3. ものづくりの楽しさ、喜びを理解できる。 4. ものづくりの本質を理解する。 5. ものがそこに存在するということの素晴らしさや難さが理解できる。					
【授業の内容】 主なテーマは以下の通りである。講義の後に、それぞれのテーマ別に工具や装置を使用して体験・実験・実習を行う。実験・実習機械の台数により班を組みローテーションで行う。 (1) オリエンテーション・安全及び安全教育 (2) 加工とはなにか、機械を作る機械 (3) 手仕上げに使用する工具 (4) ボール盤とその使用方法 (5) 旋盤とその使用方法 (6) ものの長さを測るA (7) ものの長さを測るB (8) ものづくりのための準備 (9) 機械と設計・製図 手仕上げによる加工の実験					
【時間外学習】 各テーマ別に設定した課題を調べておくこと。D, I, Y ストアなどで事前・事後、テーマに関連する実際の道具や工具、機械類等を調査すること。					
【教科書】 適宜必要事項をプリントにて配布、もしくはインターネットのホームページ上に掲示する。 【参考書】 機械実習 実験出版					
【成績評価の方法及び評価割合】 テーマ毎のリポートあるいは小テスト40%、製作作品60%					
【注意事項】 けがの防止等、安全管理上、作業服、作業靴、帽子などを必ず着用。 材料代は実費を請求。10名を超えた時、抽選を行う。 ・教育福祉科学部技術修習及び工学部は受講不可					
【備考】					

資料：1-1-5：教育成果に関するアンケート結果

【平成 22 年 2 月 20・21 日実施】

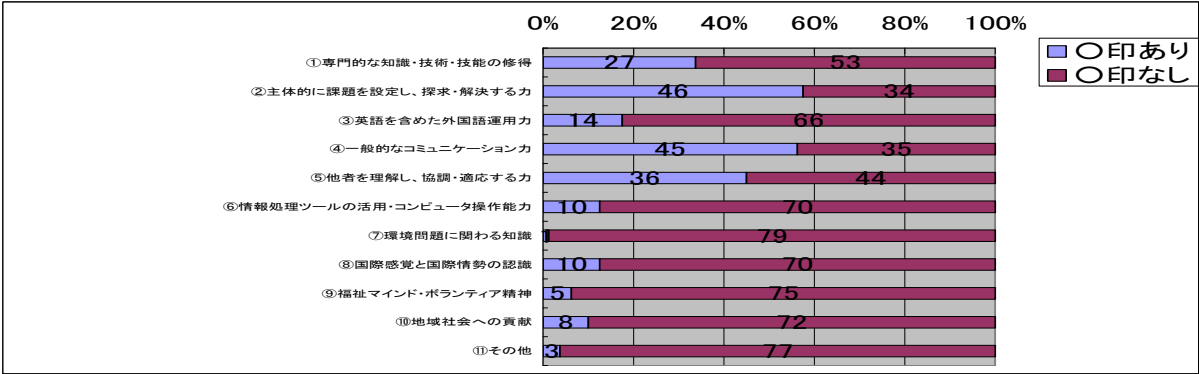
（設問） 本学の卒業生が持つ能力、傾向について、以下の項目の当てはまる番号一つに○を付けてください。

	優れている	やや優れている	ふつう	不満である	極めて不満である	不明・わからない	印なし	計
①一般常識、マナー	10	24	25	2	0	3	16	80
②基礎学力・教養	9	23	27	0	0	5	16	80
③専門知識・技術・技能	5	20	31	0	0	8	16	80
④英語を含めた外国語運用力	1	3	39	7	0	13	17	80
⑤国際感覚	1	2	38	10	0	12	17	80
⑥一般的なコミュニケーション力	6	21	29	4	0	3	17	80
⑦協調性・適応性	7	27	26	0	0	3	17	80
⑧コンピュータ操作能力・情報処理	2	18	34	0	0	3	17	80
⑨プレゼンテーション能力	4	14	36	2	0	7	17	80
⑩課題発見・探求・解決力	4	18	32	3	0	6	17	80
⑪マネジメント力・指導力	3	12	36	3	0	9	17	80
⑫責任感・倫理観・誠実性	7	20	30	1	0	6	16	80
⑬積極性・熱意・意欲	7	22	28	2	2	3	16	80



（設問） 本学ないし大学教育全般において今後力を入れるべきと考えられる課題について、以下の項目の当てはま

	○印あり	○印なし	計
①専門的な知識・技術・技能の修得	27	53	80
②主体的に課題を設定し、探求・解決する力	46	34	80
③英語を含めた外国語運用力	14	66	80
④一般的なコミュニケーション力	45	35	80
⑤他者を理解し、協調・適応する力	36	44	80
⑥情報処理ツールの活用・コンピュータ操作能力	10	70	80
⑦環境問題に関わる知識	1	79	80
⑧国際感覚と国際情勢の認識	10	70	80
⑨福祉マインド・ボランティア精神	5	75	80
⑩地域社会への貢献	8	72	80
⑪その他	3	77	80



（出典：企業アンケート集計結果（平成 22 年 2 月 20 日実施）から抜粋）

資料 1-1-6：キャリア教育推進連絡会議 会議概要

平成 21 年度 第 2 回キャリア教育推進連絡会議 会議概要	
日 時	平成 22 年 3 月 24 日(水) 12:00～12:30
場 所	旦野原キャンパス 教養教育棟 2F 会議室 1 挟間キャンパス 多目的会議室
出席者	大嶋 誠議長、柳井智彦、市原宏一、豊田昌宏、藤井弘也、横井 功、島田達生
欠席者	鴻上喜芳、宇津宮孝一
陪席者	工藤教育支援課副課長
資料	
資料 1	合同企業説明会でのアンケート集計結果について
議題	
1. 合同企業説明会でのアンケート結果について（資料 1）	
議長から、資料に基づきアンケート結果について報告があった。	
審議の結果、アンケート結果を来年度以降のカリキュラム編成に反映させるべく全学教育機構運営会議での検討を依頼することとした。	

（出典：キャリア教育推進連絡会議概要から抜粋）

資料 1-1-7 : 平成 21 年度 FD 実施状況

全学的なFD
平成21年度

名称	開催日	参加者数	うち大学院 教育課程 担当者数
(大学院FD講演会)			
・長崎大学における大学院教育改革の取り組み	9月30日	32名	30名
・メンタルヘルス講演会 現代学生のメンタルヘルス—摂食障害、ひきこもりを中心に— (学部と合同)	12月11日	25名	19名
・ティーチング・ポートフォリオFD講演会・ミニワークショップ (学部と合同)	7月30日	40名	22名
(学部・大学院合同FD研修会)			
・オンライン授業公開・授業検討会	7月29日～9月30日	5名	2名
・学生教職員教育改善シンポジウム (学内合同FD研修会「きっちろふフォーラム2009」第1部)	11月25日	31名	26名
・教育課題・教育実践検討会 (学内合同FD研修会「きっちろふフォーラム2009」第2部)	11月25日		
・授業公開・授業検討会	12月14日～18日	8名	8名
・WebClass利用者講習会 (初心者説明会)	4月13・17・20・24日	3名	3名
・WebClass利用のコンサルティング活動	随時	7名	7名
・ティーチング・ポートフォリオFDワークショップ	3月1日～3日	9名	2名

全学的なFD
平成20年度

名称	開催日	参加者数	うち大学院 教育課程 担当者数
(大学院FD講演会)			
・大阪大学大学院における教育改革	7月24日	31名	23名
・メンタルヘルス講演会 学生とのよりよい関係を目指して (学部と合同)	11月7日	54名	35名
・FDとeラーニングに関する講演会 (学部と合同)	1月30日	26名	14名
(学部・大学院合同FD研修会)			
・大分大学ティーチング・カフェ	6月17日、20日	18名	13名
・オンライン授業公開・授業検討会	10月前半	7名	2名
・先進的eラーニング研究会	11月14日	16名	8名
・学生教職員教育改善シンポジウム (学内合同FD研修会「きっちろふフォーラム2008」第1部)	11月26日	43名	36名
・教育課題・教育実践検討会 (学内合同FD研修会「きっちろふフォーラム2009」第2部)	11月26日		
・授業公開・授業検討会	12月15日～19日	21名	15名
・WebClass講習会	(4月22日、10月～12月随時実施)	8名	6名

各研究科FD
平成21年度

名称	開催日	参加者数	うち大学 院教育課 程担当者
①教育学研究科			
・11の専攻・専修のほとんどで、年間2回～4回程度の修士論文中間発表会を実施	2月17日 (理科), 2月21日 (社会科) など		5～72名
②経済学研究科			
・修士論文中間発表会	10月21日	50名	30名
・学位論文中間発表会 (博士)	6月3日	50名	35名
・博士学位論文中間発表会 (博士)	10月28日	20名	15名
・学位論文予備審査報告会 (博士)	11月25日	20名	15名
③医学研究科 (医学専攻)			
・平成21年度大学院中間発表会	5月11日	72名	43名
④工学研究科			
・山口大学・大分大学合同修論中間発表会 (エネルギーシステム工学専攻)	9月18日	48名	4名
・修士論文中間発表会 (知能情報工学専攻)	4月23・30日, 5月7・14・21・28日, 10月15・22・29日, 11月5・12・19日		22名
・修士2年生 (M2) の中間発表会 (応用化学専攻)	7月18日	39名	13名
・修士1年生の中間発表会 (応用化学専攻)	12月25日	37名	13名
⑤福祉社会科学研究科			
・修士論文中間発表会	9月12日	5名	

各研究科FD
平成20年度

名称	開催日	参加者数	うち大学 院教育課 程担当者
①教育学研究科			
・修士論文構想発表会 (平成20年7月23日) (学校教育専攻臨床心理学コース)	7月23日	20名	
・修士論文中間発表会	11月5日	20名	
②経済学研究科			
・修士論文中間発表会	11月5日	38名	10名
③医学研究科			
・大学院博士論文中間発表会 (医学専攻)	5月12日	32名	
・がん看護プロフェッショナルセミナー (看護学専攻)	8月22日	多数	
④工学研究科			
・山口大学・大分大学合同修論中間発表会 (エネルギーシステム工学専攻)	9月19・20日	22名	3名
・大分大学-徳島大学合同大学院修士論文中間発表会	1月9・10日	18名	3名
⑤福祉社会科学研究科			
・修士論文中間発表会	9月20日	10名	

(出典：高等教育開発センター平成 20・21 年度 F D 活動一覧から抜粋)



[アクセス・お問い合わせ](#) [大分大学](#)

[高等教育開発センター](#) > [ファカルティディベロップメント](#) > [ティーチング・ポートフォリオ講演会](#)

「ティーチング・ポートフォリオFD講演会・ワークショップ」概要報告

文責：牧野治敏(高等教育開発センター)

高等教育開発センターでは、平成21年7月30日(木)13時10分より、学部・大学院合同FDの一環として、「ティーチング・ポートフォリオFD講演会・ミニワークショップ」を開催しました。講師として大学評価・学位授与機構 准教授の栗田加世子先生と大阪府立工業高等専門学校 准教授の北野健一先生をお迎えし、旦野原キャンパス教養教育棟第32号 教室をメイン会場として実施し、挟間キャンパス211号教室へは遠隔授業システムで同時配信しました。

また、地域連携研究コンソーシアム大分の協賛により、大分工業高等専門学校、別府大学、立命館アジア太平洋大学、大分県立看護科学大学、大分県立芸術文化短期大学、本学リサーチファクトリーへの配信を試みました。

講演会に先立ち、本学教育担当理事嘉目教授による挨拶と、司会者からの講師紹介が行われました。



講演1 「ティーチング・ポートフォリオとは」 講師 栗田佳代子(大学評価・学位授与機構 准教授)

栗田先生の講演では、高等教育の現状を踏まえたティーチング・ポートフォリオ(以下、「TP」)の導入の意義・特徴・構成要素等が解説されました。また、TPの有効性が、高等教育の説明責任と教育の質の保証の見地から、カナダ、アメリカの現状の紹介とともに説明されました。TPの作成方法とともに、TPとは自らの授業実践の事実集積記録とそれに対する自己省察の文章から構成されるものであり、教員自身の授業改善だけでなく、教員組織集団での教育資源の共有、教員の教育評価にも有効との指摘もありました。

講演2 「事例報告 ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップを開催して」 講師 北野健一(大阪府立高専 准教授)

次に、北野先生から大阪府立高専でTP作成ワークショップを開催した経緯とTP作成による教育改善の事例が報告されました。先生ご自身がTPの作成を始めた経緯、高専での普及の呼びかけ・ワークショップの開催とその効果、高専独自の評価項目の必要性等について具体的に報告されました。特に、ワークショップの開催により「メンターの立場で参加したことで多くのことが学べた」との感想や、「TPは教育者にとっての『人間ドック』」との示唆は印象的でした。

(出典：高等教育開発センターホームページから抜粋)

資料 1-1-9：入試区分別入学者成績追跡調査報告

2009 年度 入試区分別入学者成績追跡調査報告 入学企画支援センターは、過去 5 年間にさかのぼって入試区分別に入学者の成績追跡を行った。その調査結果を学部毎に、＜要点＞＜分析＞＜提言＞として纏めた。＜要点＞はグラフが示す注目すべき点を書き出している。＜分析＞は上記の注目すべき点が如何なる原因によって発生したかを述べている。＜提言＞では、グラフの読み取りに加え、学外者の意見、本学入試制度の問題点、他大学の制度等を参考にして提言を行なってみた。各学部においてはそれらの提言に関し積極的な検討を頂ければ幸いである。 大分大学 入学企画支援センター	教育福祉科学部 <要点> 入試区分別（一般入試前期日程、一般入試後期日程、推薦入試、社会人特別入試）に分類し、入学後の学内成績を学期毎に追った。その結果は別表の通りであるが、2005 年入学者では、社会人特別入試を除く 3 区分は、入学直後の 1 年次前期成績では同じようなレベルにある。しかしながら、推薦・前期日程での入学者が 1 年次後期試験成績で幾分かの向上を見せるのに対し、後期日程入学者の成績は、入学直後から下降し始める。2 年次前期試験では、推薦・前期日程入学者と後期日程入学者の G P A 差が約 0.3 に拡大している。そしてその差は卒業直近になってわずかながら縮小するのみで、1 年次から 2 年次前半で開いた差が卒業までに埋まることはない。 2006 年及び 2007 年入学者に関しては後期日程からの入学者が 4 年間に亘って前期日程や推薦入試入学者より上位にある。 2008 年入学者では入学時での成績では大きな差異は無いが、一般後期入学者が他の入試区分入学者より低迷気味である。 <分析> ① 一般的に推薦入試入学者は入学後の学習力に問題があると見られがちであるが、1 年次前期試験結果を見る限り、推薦選抜からの入学者が学力的に低いとは言えない。これは多分に推薦選抜入学者が他の選抜入学者より高いモチベーションを持って入学していることから、仮に高校時代に多少低い学力であったとしても、入学後の努力で十分に本学での教育に対応できているということを証明するものであろう。高校進路担当に国立大学推薦入試を志願する学生のステレオタイプを伺ったところ、普通科進学系高校では「真面目でコツコツ型」「もっと上位校にも挑戦出来得る学力を持っている場合が多い」との返事が返ってきた。 ② 逆に後期日程入学者は、第一希望でない本学へ入学したという心理に因って、学習への意欲が低下し、やる気のない 1・2 年次を送っていると言える。そのモチベーションの低さも 3 年次頃には改善されるよう成績も多少向上を見せる。しかし、前期日程や推薦入試での入学者と比べて後期日程入学者はメンタル面から本学での就学の問題を抱えていると思える。後期日程入学者の多くが、第 2・第 3 志望の大学へ入学したというネガティブな思いを引きずっている場合が多いのではないだろうか。 ③ 2005 年入学者グラフ下にある 2009 年前期試験を含めたグラフは、入学から 5 年目に入った学生の成績を表しているが、ここでも、推薦入試での入学者より、一般選抜での入学者がより深刻な成績不振を抱えていることがわかる。 ④ 後期日程入学者でも高い志願倍率の年度に入学した学生は、4 年間を通して高い成績を維持している。2006 年入試では志願者が 1015 名で志願倍率が 11.9 倍と極め
---	---

(出典：2009 年度入試区分別入学者成績追跡調査報告から抜粋)

資料 1-1-10：募集定員の見直し

平成 24 年度以降の推薦入試の見直し

(1) 工学部福祉環境工学科・建築コース A 推薦の募集人員を 0 とする (A 推薦を廃止する)。

○工学部福祉環境工学科・建築コース

平成 23 年度			平成 24 年度		
推薦入試	A 推薦	3	推薦入試	A 推薦	0
	B 推薦	5		B 推薦	5
前期日程		32	前期日程		35
後期日程		10	後期日程		10
合計		50	合計		50

A 推薦の募集人員を 0 とする理由：

工学部福祉環境工学科・建築コースでは、これまでの推薦入試の実績から、A 推薦枠の募集を止め、推薦入試は B 推薦枠に一本化することを検討してきた。今回、少なくとも建築コースにおいては、A 推薦枠に出願する志願者の選抜は一般入試による選抜が望ましいとの最終判断に至り、A 推薦枠の募集を止めることとした。

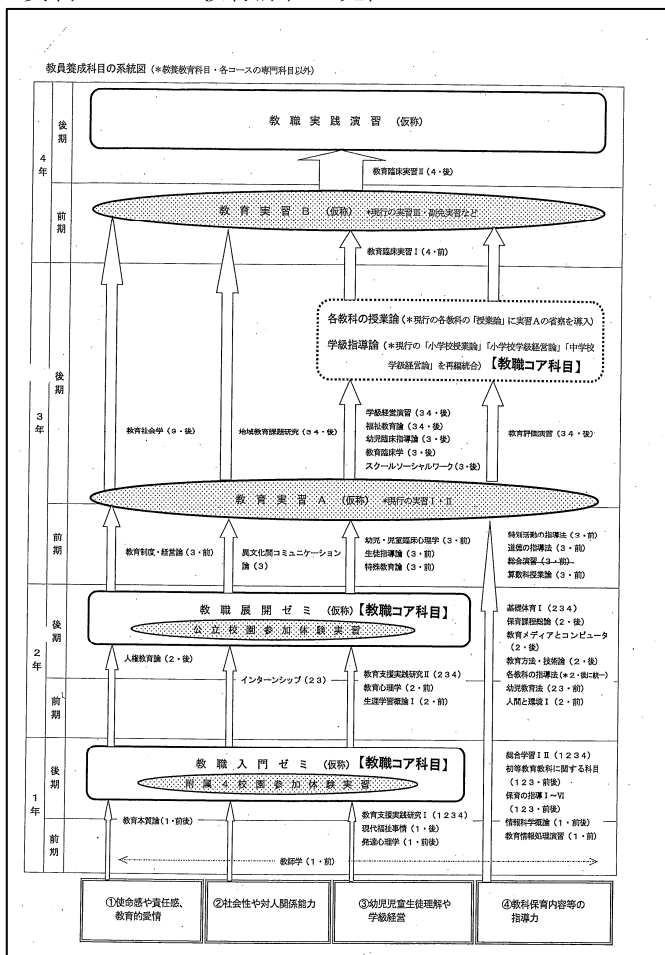
(2) 検査項目としての「小論文Ⅰ」と「小論文Ⅱ」を廃止し、それに代わるものとして「基礎能力試験」を新設する。

「小論文Ⅰ」と「小論文Ⅱ」を廃止し、「基礎能力試験」を新設する理由：

- ・従来の「小論文Ⅰ」の内容では、受験者の能力を評価することが難しいため。
- ・また、従来の「小論文Ⅱ」のような基礎学力を調べる試験がより重要と考えられ、検査項目名としても「基礎能力試験」の方が、その内容をより反映し受験者にも理解しやすいと考えられるため。
- ・さらに、検査項目を統合する事により、これまで 2 日に分けて行っていた推薦入試の 1 日実施が出来る可能性もあり、その場合、結果的に受験者への負荷が軽減されるため。

(出典：工学部入試委員会資料から抜粋)

資料 1-1-11：教育課程の見直し



上 級 科 目 名 記 (Bookkeeping)						
必修・選択	単 位	対象学年	学 部	学 期	曜・限	担 当 教 員
選択	4	3年次 以 上	経	前期	水曜 3・4限	(非) 講師 山 本 直 也 内線 E-mail: n_yamamoto@o-hara.ac.jp
【授業のねらい】 本講義では、税理士試験科目である簿記論（複式簿記の原理、その記帳・計算及び帳簿編纂、商業簿記のほかに商業簿記を含む。ただし、原価計算を除く。）の知識の習得を目標としています。税理士試験科目の簿記論合格を目指す方は是非受講してください。 【具体的な到達目標】 税理士試験科目である簿記論の知識の習得を目標に講義をします。上級簿記の講義だけでは、簿記論の全範囲に網羅できません。したがって、企業実務性の高い簿記一般、現金預金、固定資産、引当金、有価証券、商品売買の各項目の基本的部分の習得を目標としています。 【授業の内容】 1. 受講ガイダンス、簿記一般Ⅰ 2. 簿記一般Ⅱ、現金預金Ⅰ 3. 現金預金Ⅱ、総合問題Ⅰ 4. 現金預金Ⅲ、債権債務 5. 固定資産Ⅰ 6. 固定資産Ⅱ 7. 第1回中間テスト 8. 引当金Ⅰ 9. 引当金Ⅱ、有価証券Ⅰ 10. 有価証券Ⅱ 11. 商品売買Ⅰ、総合問題 12. 商品売買Ⅱ 13. 商品売買Ⅲ、総合問題 14. 第2回中間テスト 15. 定期試験 【時間外学習】 講義毎に課題を課します。 【教科書】 2回目の講義にて販売します。 税理士受験対策講座 簿記論一般テキスト・チェック 【参考書】 特にありません。 【成績評価方法及び評価の割合】 定期試験（70%）、中間テスト（20%）、課題等（10%）により総合的に評価する。 【注意事項】 1日商簿記検定2級取得者しか履修できません。1回目の講義で合格證書のコピーを回収しますが必ず持参して下さい。 電卓、赤ペン、ラインマーカーを持参すること。 毎回の講義後に必ず復習すること。 【備考】 特にありません。						

授業科目	必修・選択別	単位数	対象学年	学期	曜限	担当教員
数学基礎 A	選択	2	1	前期	金 3	甲斐 隆文

【授業のねらい】
 経済学に現れる様々な現象はその多くが数理的に説明出来るモデルになっている。基礎数学 A では高等学校で履修してきた数学の復習から始め、経済学を学んでいくために必要な基本的な処理能力として、主に微分積分学の基本的な知識と計算力・処理能力を高める。

【具体的な到達目標】

1. 高校数学全般から文系の学生の必須となる基本的な分野を復習する。
2. 数学 II で学んだ微分法が、高次関数だけでなく、1変数のいろいろな関数にも適用できることを理解し、経済学・経営学の数学的なアプローチに必要な微分法に対する基本的な計算処理能力を修得する。
3. 専門的な経済学・経営学の数学的なモデルとなる多変数関数の微分法に対する基礎的な計算処理能力を 2変数の場合について修得する。

【授業内容】

1. 高校数学の復習 (1)
2. 高校数学の復習 (2)
3. 高校数学の復習 (3)
4. 高校数学の復習 (4)
5. 関数の極限・関数の連続性
6. 微分法 (1) (積・分数関数の導関数)
7. 微分法 (2) (合成関数の導関数)
8. 微分法 (3) (いろいろな関数の導関数)
9. 微分法 (4) (いろいろな関数の導関数)
10. 微分法 (5) (接線・法線、関数値の変化)
11. 微分法 (6) (グラフ・最大・最小)
12. 微分法 (7) (方程式・不等式への応用)
13. 偏微分・全微分
14. 多変数関数の極大・極小
15. 試験

【時間外学習】
 復習、予習に必要な事項は課題として授業中に指示しますが、数学に強くなるための王道はありません。日頃から納得するまで考え、自分の力で解くことが大切です。

【教科書】
 特定の教科書は使用しない。毎回資料を配布します。

【参考書】
 中井 達孝「経済数学」微分積分編 (ミネルヴァ書房)
 E.ドゥラント著「入門 例題で学ぶ 経済数学」上下 (シーエービー出版)
 浅利 朗他「はじめよう経済数学」(日本評論社)

【成績評価方法および評価の割合】
 平常点 (30%)、レポート・定期試験 (70%) で総合評価します。

【注意事項】
 数学は毎回の授業の積み重ねです。欠席をすれば次回は分からなくなります。授業は毎回出席し、分からないところは積極的に質問に来てください。

【備考】
 この授業は、A/O入試 (筆記資格) および推薦入試 (商業科・総合学科) での入学者を対象とする授業です。該当者は受講してください。

平成21年 4月15日 制定
平成21年 12月16日 改定
工学部教務委員会

技術者教育プログラム「建築プログラム」(福祉環境工学科建築コース)

この要項は、工学部履修規程第5条の4に基づき、技術者教育プログラム「建築プログラム」の履修に関して必要な事項を定める。

1. 履修者

建築プログラムを履修できる者は、福祉環境工学科建築コース（以下、「本コース」という。）の平成18年度以降に入学した者とする。

2. 履修登録

建築プログラムへの履修登録は、入学時に自動的に行われる。

3. 4 年次進級要件

建築プログラムにおいて、4年次へ進級するためには、履修者は、次の各項のすべてを満たさなければならない。

- (1) 本コースの卒業研究着手要件を満たしていること。
- (2) 累積成績指標値 GPA (Grade Point Average) が、2.8 以上であること。

なお、ここでの GPA は、大分大学工学部履修規定に示されたものを用いる。

4. 修了要件

建築プログラムを修了するためには、履修者は、本コースの卒業要件を満たさなければならない。

平成22年4月1日 第41号 大分大学医学部附属病院 かけはし 3  教授に就任して 地域医療学センター(外科分野) 教授 白石 憲男 このたび、平成22年2月1日付をもちまして地域医療学センター教授に就任いたしました。大分の外科系の地域医療の活性化と地域医療等の構築に尽力したいと考えています。 近年、医療の高度な専門性や業務負担の増大などに伴い、地域の医療に従事している医師に過重な労働が強いられるようになってきました。さらに新しい研修医制度によって医師供給のバランスが乱れ、地域医療に従事する医師の不足やその偏在化が表面化するようになっていきます。このような事態に対し、行政や医師会の方々と協力しながら、将来にわたり地域住民の方々に最善の医療を受けていただく環境づくりを行ってまいりたいと思います。 1. 地域医療システムの再構築 医師や診療科の偏在化を防ぎ、住民の皆様のニーズに合うよう、中核病院や臨床研修病院を中心とした機能分化や地域医療機関のネットワークづくりを行い、医師の供給体制の効率化に精進したいと思います。 2. 地域医療を担う人材の育成 医療の高度化によって進められてきた臓器別の縦割り医療ではなく、全人的立場から診療を行う人材が地域医療には求められます。地域医療への責務と情熱を持つ人材を育成したいと思います。 3. 地域医療の質の向上 現在、地域医療に従事している医師やコメディカルの方々のキャリアパス支援や診療支援を行う一方、職場環境の整備や改善を支援したいと思います。さらに、地域住民の方々に医学について興味を持っていただくためのセミナーや「患者の会」などの支援活動を行いたいと思います。 地域医療は、地域の住民の方々にとって、かけがえのない財産の一つです。その財産を守り育てるのは、地域の住民の方々と行政や医師会、そして医師を育成し供給する大学の責務でもあります。大分県が将来にわたり地域医療のモデル県となるよう、外科系立場から尽力したいと思います。 どうぞ、ご支援・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。	大分大学医学部附属病院 かけはし 2 平成22年4月1日 第41号  教授に就任して 地域医療学センター(内科分野) 教授 宮崎 英士 平成22年2月1日より、新たに開設された大分大学医学部附属地域医療学センター(内科分野)を担当することになりました。一言御挨拶を申し上げます。 地域医療学センター(内科分野)が取り組む課題は大きく分けて以下の三つです。まず第1に大分県で研修あるいは勤務する医師を支援し、地域医療の確保に繋げることです。小児科や産婦人科と同様に、実は地域の拠点病院における内科医不足が深刻化してきています。そこで、どの地区で何科の医師がどれだけ不足しているかを現状把握し、枠組みを取り外した医師の配置あるいは様々な診療支援により地域で働く医師の負担を緩和し、またキャリアアップを支援することで、やる気に満ちた医師が地域住民の皆さんの診療に取り組みるようにサポートしていきたいと思っています。 2 番目には、総合診療を行うことのできる医師を育成することです。高度先進医療機関では医療の細分化が進み、人から病氣、臓器、そして細胞へと目が向けられ、人を診るという視点が希薄になっているとの指摘があります。当センターの最も重要な使命として、専門臓器にこだわらず患者さんの健康問題すべて、そして生活の質にも注目しながら、一人ひとりに寄り添って支援していく医療活動、換言すれば保健・医療・福祉の輪の中で医療が行なえる医師を育成するように努めます。 3 番目は、地域における研究のネットワークを構築することです。わが国では急速に高齢化が進み、急性疾患から慢性疾患へと疾病構造の変化がもたらされ、「病気を治す」ことから「健康を増進する」、「病気を予防・管理する」ことへと診療の主軸の転換が求められています。地域における疾病構造や健康問題等に関する研究は地域医療に還元できるとともに、地域で働く医師のモチベーションの向上にも寄与することになると思います。 私は、布市庄内町に生まれ育ち、大分医科大学を第一期生として卒業しました。大分県、そして本学に育てられた恩返しとして、大分の地域医療を担う人材の育成、地域医療の向上のために努力したいと思っていますので、どうか宜しくお願い致します。
---	--

(出典：附属病院広報誌「かけはし」41号から抜粋)

資料 1-1-12：教育課程の編成（学部・大学院の接続）

大学院講義の学部生受講について

- 1) 提案理由
1. 法人評価において改善を要する点とされた「大学院教育との接続を考えた教育課程を編成し」に対して、経済学部として対応するため。
- 「大学院教育との接続を考えた教育課程を編成し、進学希望者に対して適切な指導を行う。」に係る状況
- 工学部は大学院教育との接続として早期卒業制度を設け、経済学部では修士（博士前期）課程に学部推薦制度を設けて、成績優秀者に対する大学院進学意欲を向上させる等、進学希望者に対し、適切な指導を行った。（資料1-1-2：経済学研究科推薦制 P3）
- 中期計画「大学院教育との接続を考えた教育課程を編成し、進学希望者に対して適切な指導を行う」について、早期卒業制度や修士課程への学部推薦制度等が、「大学院教育との接続を考えた教育課程の編成」に該当しているとはいえないことから、改善することが望まれる。
2. 大学院への進学予定者に対しては進学前の事前準備としての教育の場を確保し、進学希望者に対しては、大学院での研究の実験を体験させることで、進学意欲をより深化・具体化させる。
- 2) 制度の概要
1. 大学院講義科目の一部を学部生に学部専門科目として履修を認める。
2. 対象となる授業科目は、当該年度に大学院生が受講する科目の中から大学院委員会が定める。
3. 大学院進学を希望できる学年として3年次後期以上を対象とする。
4. 学期25単位の枠外とするが、学習成果が実効あるものとなるように2単位までの履修とする。

授業科目名	必修 選択	単位	学 期 限・限	担当教員名（所属）
大学院接続講義	選択	2		
【授業のねらい】 大学院への進学予定者に対しては進学前の事前準備としての教育の場を確保し、進学希望者に対しては、大学院での研究の実験を体験させることで、進学意欲をより深化・具体化させる。				
【具体的な到達目標】 1. 大学院講義を大学院生と共に受講することを通じて修士課程での研究方法・スタイルを知る。 2. 修士課程進学を予定している学部生に大学院での研究の準備を進めさせる。 3. 修士課程進学を希望している学生には、大学院の講義と具体的に学ぶ大学院生の姿を見せることで進学への動機付け深化を図る。				
【授業の内容】 大学院講義を大学院生と共に受講することで、修士課程での研究方法・スタイルについての理解を深めていきます。同時に、大学院講義における受講生としての課題を、大学院生の支援も得ながら果たしていきまします。同時に、教員の指導と大学院生の支援を得ながら、大学院を展望した修士課程での学習、卒業論文や専門演習での課題などの学習を深化させます。				
【成績評価の方法及び評価割合】 授業における報告や発表、発言内容とレポート等の学習成果のまとめ				
【注意事項】 1. 大学院進学を希望できる学年として3年次後期以上を対象とする。 2. 学習成果が実効あるものとなるように、学期当たり2単位までの履修を認める。				

この部分は著作権の関係で掲載できません。

(出典：メンタルフレンド派遣事業、シラバス「大学院接続授業」から抜粋)

資料 1-1-12：教育課程の編成（学部・大学院の接続）

知の創造プロジェクト (PCF)

平成20年10月9日

知の創造プロジェクト「JAVA講習会」開催案内

知の創造プロジェクトでは9月30日のエクセル基礎講座に続き、セミナー第2弾として「JAVA講習会」を企画しました。**学部の先輩たちが分かりやすく JAVA 言語とその応用について紹介してくれます。是非積極的に参加してください。**

講座概要
 JAVA環境のインストール・JAVAの基礎から JAVA アプリケーションの構築までの技術の習得

実施日 平成20年11月8日(土)、9日(日)、14日(土)、15日(日)

講座時間 9:00～16:30 (途中休憩あり)

講座場所 合同棟6Fハードウェア実習室(予定)

対象 知能情報システム工学科・専攻の学生(学部生・院生)
 Java初心者を対象とします。

受講人数 20名まで

使用教材 「Eclipse」をはじめの JAVA プログラミング入門 Eclipse3.3対応 ver」(秀和システム)

担当講師 知能情報システム工学科・専攻のM2、M1、4年生の有志
 (兒玉清幸、塚本賢治、山尾真二、安部祐樹、竹田裕一、井上誠雄)

参加費 無料

参加申込 随時募集(合同棟6F) ochi@csis.oita-u.ac.jp まで参加希望を連絡してください。

講習概要 知の創造プロジェクト(PCF)のホームページ (<http://www.csis.oita-u.ac.jp/PCF/>) に詳細な内容を掲載しています。

2010/05/12 17:27

知の創造プロジェクト

大分大学工学部 知能情報システム工学科

Project on Intellectual Creation and Practices

知の創造プロジェクトとは

知能情報システム工学科の学生が、IT技術に関わる実務の知識・プロジェクトに参加することで、これまでに学んで得た知識や技術を生かし、実践力を高め、めざましいプロジェクトです。

参加者募集のプロジェクト

下記のJOBについて募集を開始しました。

- 大分大学図書館 学術情報リポジトリの改修(8月3日募集開始)
- 事務業務効率化のためのシステム構築(8月3日募集開始)

平成21年度のJOB候補(8月3日現在)

- 大分大学図書館 学術情報リポジトリの改修(募集中)
- 事務業務効率化のためのシステム構築(募集中)
- 九州情報通信推進協議会関連のJOBを計画中です
- 大分県、IT推進部門関連のJOBを計画中です

大分大学 知能情報システム工学科

2009年

9月3日(月) 知の創造プロジェクト・学生データベース作成のためのWebClassアンケートを実施します(締め切り8/31)

9月15日(金) メディア教育研修会3月9日(研修会案内)

2月15日(金) 11月10日(金) 知の創造プロジェクト学生アンケートを実施します(締め切り10/31)。

10月10日(金) オブジェクト指向設計セミナー3月5日(募集開始)

2008年

12月11日(火) システム開発工程マネジメント講習会12月23日(募集開始)

11月4日(火) Java講習会11月8-9-15-16日(募集開始)

10月31日(金) 前期に終了したプロジェクトの終了証授与式が行われました。

10月30日(木) 『大分大学学術情報リポジトリ構築インテンティブシステム』の開発プロジェクトへの参加募集を開始しました。

10月9日(日) Java講習会の日曜が休みになりました。11月8-9-15-16日(募集開始)

10月10日(金) 知の創造プロジェクト学生アンケートを実施します(締め切り10/31)。

(詳細はこちら)

8月28日(木) 事務業務効率化のためのシステム構築(募集開始)

8月29日(金) 学術情報リポジトリの改修(募集開始)

8月30日(土) 知の創造プロジェクト学生アンケートを実施します(締め切り10/31)。

8月7日(木) 安部祐樹、Eclipse講習会(9月30日(火))

8月7日(木) 知の創造プロジェクトのWebサイトをオープンしました。

セミナー・講演会情報

2009年

3月27日(金) 講演会「ソフトウェア産業活性化プラン」(終了)

3月9日(月) メディア教育研修会(終了)

3月6日(金) 講演会「大分でもオープンソースソフトウェアやっています」(終了)

3月5日(木) オブジェクト指向設計セミナー(終了)

2008年

12月23日(火) システム開発工程マネジメントセミナー(終了)

11月16日(土) Java講習会11月8-9-15-16日(募集開始)

10月30日(木) Excel講習会(終了)

3月19日(金) 講演会「先端技術者として活躍する秘訣」(終了)

3月14日(金) 講演会「エンジニアとして活躍する秘訣」(終了)

3月10日(月) 11月10日(金) CSS入門セミナー(終了)

3月10日(月) 11月10日(金) UML入門セミナー(終了)

1月12日(土) 15日(火) Javaアプリケーション開発セミナー(終了)

(出典：大分大学工学部ホームページから抜粋)

この部分は著作権の関係で掲載できません。

この部分は著作権の関係で掲載できません。

(出典：読売新聞、大分合同新聞から抜粋)

資料 1-1-14 : ミニ FD の内容

国立大学法人 大分大学
学生支援GP ミニFD配付資料

まとめ
—アウトリーチ型支援を実施して—

- 保健管理センターに相談に来ていた学生が「びあROOM」に行き始めて安定したり、ソーシャルワーカーの活動領域が広がり、家族・教職員との調整はかどるなど相乗効果がみられるようになった
- 潜在的なニーズのある学生に対する総合的支援の窓口ができて、不登校でない学生も相談に来るなど学生支援の幅が広がった
- 青年期の発達心理等について教職員の理解が深まれば、不登校学生だけでなく、現代の多様な学生の成長・発達を見通した教育が可能となる

16

最後に：お願いしたいこと

- 不登校がちな学生との面接やご指導はこれまで通りお願いします
- そのうえで是非「びあROOM」を活用してください。学生紹介の窓口は保健管理センター・藤田です
(内線：7476)
- 大分大学HPのトップページに「びあROOM」のバーナがあります。必要に応じて保護者にもHPのご紹介をお願いします
- 学習サポートのみ必要な場合は直接「びあROOM」に行くように学生に指示してください

17

国立大学法人 大分大学
学生支援GP ミニFD配付資料(2巡目)

6. 学生生活サイクルと不登校
表1 学生生活サイクルの特徴 (関田, 2001を一部改題)

	入学期 (1年生)	中間期 (2~3年生)	卒業期 (4年生)	大学院学生期
学生の課題	・これまでの生活(対人関係)からの分離 ・新しい生活の開始 ・学生生活への移行	・学生生活の展開 ・自分らしさの探究 ・中だるみ ・現実生活と内面の統合	・学生生活の終了 ・社会生活への移行 ・青年期最後の節目 ・現実生活の課題を通して内面を整理	・研究者・技術者としての自己形成
心理学的特徴	・自由の中の自己決定 ・高揚と落ち込み	・曖昧さの中の深まり ・親密な関係	・もう一つの卒業論文・将来への準備	・職業人への移行 ・自信と不安
未熟学生が抱った主題	・移行に伴う問題 ・入学以前から抱えてきた問題	・無気力・スランプ ・生きがい ・対人関係をめぐる問題	・卒業を前に未解決な問題に立ちこむ ・卒業後の混乱 ・指導教員との関係	・研究生活への違和感 ・能力への疑問 ・研究室での対人関係

→ 心身の不調は出席状況の変化(不登校傾向)、履修状況(成績、単位数)の変化として現れることが多い

8

Ⅲ. 不登校学生への支援

1. 不登校学生支援の困難さ

- 相談を継続した学生 → 卒業もしくは主体的進路変更が多い
相談を継続できない学生 → 不本意な形で退学が多い
- 自発的来談、焦点化された悩み → 相談が継続しやすい
受身的来談、悩みの拡散 → 相談が中断しやすい
- 不登校学生の中には、悩みそのものが拡散しており、支援に対しても受身的で、相談援助そのものを継続しにくい(ドロップアウトしてしまう)学生が少なくない

9

2. 不登校学生の支援
(1) 支援ネットワークの形成
→ 教職員による日常的な学生指導と専門的支援の場の有機的連携、協働(コラボレーション)

(2) 支援ネットワークに学生を「つなぐ」こと

3. 専門的支援の場

- キャンパスライフなんでも相談室
- 保健管理センター健康相談室
- 不登校傾向学生の居場所としての「びあROOM」
→ 問い合わせは学生支援課、保健管理センター

10

(出典：ミニFD配付資料から抜粋)

資料 1-1-15 : ぴあ ROOM 利用状況

【21.4月分～22.2月分】

【相談等延件数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
社会福祉士	52	58	83	117	95	136	192	79	74	91	68	71	876
臨床心理士	14	24	11	23	23	157	16	19	24	27	22	16	240
精神科医師	32	25	23	39	21	30	27	33	38	31	31	30	360
社会福祉士	10	13	5	2	7	0	6	17	7	9	10	23	109
臨床心理士	0	15	0	8	0	3	0	0	1	0	0	1	3
精神科医師	5	2	3	1	2	0	0	4	3	0	1	3	28
社会福祉士	15	1	20	19	0	2	0	3	0	3	3	8	74
臨床心理士	2	2	5	28	1	11	15	4	2	1	0	0	27
精神科医師	9	4	3	7	3	3	12	10	6	5	4	6	72
社会福祉士	0	1	1	0	0	0	4	5	3	3	3	4	24
臨床心理士	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2
精神科医師	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
社会福祉士	27	25	15	37	14	14	25	17	26	20	27	31	278
臨床心理士	0	0	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0
精神科医師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会福祉士	104	98	124	153	57	55	165	121	110	126	111	137	1361
臨床心理士	16	26	16	24	17	25	31	23	27	28	22	17	272
精神科医師	46	32	29	47	26	30	46	47	47	36	36	39	461
計													

【学習サポートデスク利用者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実数	4	4	5	5	1	1	3	4	4	6	11	4	【実数: 9】
延数	11	6	19	24	1	2	6	15	27	31	68	36	246
実数	1	5	4	5	0	1	6	5	7	7	5	1	【実数: 13】
延数	4	18	20	33	0	2	15	10	28	19	23	8	180
実数	11	32	19	31	6	5	21	12	28	21	17	9	【実数: 46】
延数	91	122	110	131	14	23	134	90	110	84	100	29	1038
実数	16	41	28	41	7	7	30	21	41	34	33	14	【実数: 68】
延数	106	146	149	188	15	27	155	115	165	134	191	73	1464

【フリースペース利用者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実数	7	8	9	12	5	6	12	12	9	12	9	10	【実数: 12】
延数	46	32	59	86	34	40	87	83	72	74	76	78	767
実数	8	9	9	10	1	4	9	11	6	7	7	6	【実数: 24】
延数	30	35	48	47	9	20	41	48	43	32	33	18	404
実数	13	20	13	10	6	5	15	12	13	10	10	6	【実数: 20】
延数	53	57	68	46	18	26	100	74	74	53	58	32	659
実数	28	37	31	32	12	15	36	35	28	29	26	22	【実数: 56】
延数	129	124	175	179	61	86	228	205	189	159	167	128	1830

(出典：学生支援課作成)

資料 1-1-16：平成 21 年度学生支援の状況

(学生支援における通常の予算配分)

	費 目 (支援内容)	金 額 (万円)
日 野 原	課外活動費 (物品購入・施設改修等)	3 3 0
	学生会館運営費 (貸出物品購入・施設改修等)	8 0
	サークル研修費 (バス借上げ等)	1 2 0
	学生支援課経費 (学園祭補助等)	1 6 0
挟 間	厚生補導事業費 (物品購入・施設改修等)	1 6 7
共 通	大分大学活き ² プロジェクト経費 (プロジェクト活動経費)	2 0 0
	学生支援協力金 (外部指導者謝金・インセンティブ付与等)	2 8 0
合 計		1, 3 3 7

(平成 21 年度に実施した特別支援内容)

	費 目 (支援内容)	金 額 (万円)
日 野 原	学生支援経費 (活動備品の更新・新規購入等)	1, 5 3 0
	プールろ過機改修経費 (ろ過機周辺機器の更新)	3 3 0
	部室棟新設経費 (部室棟新設・備品設置)	3, 8 1 0
	陸上競技場トイレ改修経費 (屋外トイレの改修)	8 3 0
	野球場トイレ新設経費 (屋外トイレ新設)	9 7 0
	体育館ハンガードア改修経費 (ハンガードアの改修)	3 9 0
挟 間	厚生補導事業費【追加】 (物品購入・施設整備等)	1 1 4
	学生支援経費 (活動備品の更新・新規購入等)	9 0 9
	課外活動施設整備費 (野球場グラウンド整備)	2 1 4
合 計		9, 0 9 7



新設された部室棟



更新された課外活動備品 (ヨット)

(出典：学生支援課作成)



大分大学医学部附属病院
総合臨床研究センター
General Clinical Research Center, Oita University Hospital

[○お問合せ](#) [○アクセスマップ](#) [○リンク](#) [▶ サイトマップ](#) [▶ プライバシーポリシー](#)

設立にあたって

特色・活動内容

組織体制

治験について

クリニカル
トライアル部門

臨床試験支援部門

事務部門

ネットワーク部門

データセンター部門

臨床研究審査委員会
(IRB)

報道一覧 ▶

セミナーの紹介 ▶

**臨床薬理センター
WEBサイト**

**豊の国臨床試験ネットワーク
豊ネット**

J-CLIPNET
グローバル
早期臨床試験推進のための
大学病院ネットワーク

**大分大学
医学部**
OITA UNIVERSITY FACULTY OF MEDICINE



総合臨床研究センターの設立にあたって

○ごあいさつ

昨今の日本国内の治験の海外流出による空洞化の問題は、経済面からのみでなく倫理的観点からも問題となり、第Ⅰ相からⅢ相までの臨床試験や質の高い成果が求められた結果、厚生労働省・文部科学省の治験活性化5ヵ年計画が策定されました。日本全国10箇所を厚生労働省が治験中核病院として指定しましたが、大分大学医学部附属病院は関東・関西以外で唯一の指定であり、その成果が日本全体の治験事業に影響を及ぼすことから、大分大学として全学的な取り組みが必要となりました。そこで早期臨床試験施設クリニカルトライアルユニットの開設、国内共同・国際共同試験を支援する体制として、大分大学附属病院の臨床研究体制を一元化した総合臨床研究センターを設置しました。総合臨床研究センターの設立により大分大学附属病院が日本と東アジアにおける臨床試験・臨床研究の拠点のひとつに発展することを希望しています。

大分大学医学部附属病院において治験を含む臨床試験の支援・実践を一元化するために総合臨床研究センターが開設されました。大分大学医学部附属病院では新GCPが施行後まもなく、全国に先駆け臨床研究コーディネーター(CRC)が臨床薬理センターに配置され、治験を含む臨床研究の推進に取り組んできました。また、豊の国臨床試験ネットワークを立ち上げ、現在では10幹事施設を含め57医療機関が参加し、大分県の医療の向上に寄与してきました。平成19年度に厚生労働省より治験中核病院に選定され、地域は勿論のこと、全国の医療機関を支援する体制が求められることになりました。このため、本附属病院をあげて、治験を含む臨床試験の活性化に寄与するために、総合臨床研究センターを開設することになりました。この総合臨床研究センター内に全国の国立大学病院で初めて病棟内に臨床試験専用病床を有するクリニカルトライアルユニットを創設し、専任のCRC等を配置いたしました。これによりグローバル早期臨床試験を円滑に実施する体制が整いました。我々スタッフ一同は国民の皆様によりよい医薬品をいち早く届けることにより、医療・福祉の向上に努めたいと考えております。



総合臨床研究センター
センター長
野口 隆之



総合臨床研究センター
副センター長
大橋 京一

[このページの先頭へ ▲](#)

[TOPページに戻る ◀](#)

[○お問合せ](#) [○アクセスマップ](#) [○リンク](#) [▶ サイトマップ](#) [▶ プライバシーポリシー](#)

(出典：大分大学医学部附属病院ホームページから抜粋)

18

資料 2-1-2：国際交流協定校一覧（アジア関係のみ）

国際交流協定校等（アジア関係のみ表記）		2010.5.5現在	
国・地域（数）	大 学 名	内 容	
韓国（14）	南ソウル大学校	学生交流（5人）	
	忠州大学校	学術交流・学生交流（5人）	
	西京大学校	学術交流・学生交流（5人）	
	嶺南大学校	学術交流・学生交流（5人）	
	ソウル女子大学校	学生交流（5人）	
	高麗大学校	学術交流・学生交流（5人）	
	梨花女子大学校	学術交流・学生交流（5人）	
	順天大学校	学術交流・学生交流（5人）	
	培材大学校	学術交流・学生交流（5人）	
	暎園大学校	学術交流・学生交流（5人）	
	江南大学校	学術交流・学生交流（5人）	
	釜山大学校	学術交流・学生交流（5人）	
	江陵大学校	学術交流・学生交流（5人）	
	光州大学校	学術交流・学生交流（5人）	
中国（13）	江漢大学	学術交流・学生交流（5人）	
	河北医科大学（医学部との学部間交流）	学術交流（2人）	
	中華人民解放軍軍医進修学院（医学部との学部間交流）	学術のみ	
	遼寧師範大学	学生交流（5人）	
	香港大学	学術交流・学生交流（5人）	
	河北師範大学	学術交流・学生交流（5人）	
	華中科技大学	学術交流・学生交流（5人）	
	深セン大学	学術交流・学生交流（5人）	
	南陽理工学院	学術交流・学生交流（5人）	
	对外経済貿易大学	学術交流・学生交流（5人）	
	中南財経政法大学	学術交流・学生交流（5人）	
	中国科学院新疆理化技術研究所	学術交流	
	武漢大学	学術交流・学生交流	
台湾（1）	東海大学	学生交流（5人）	
タイ（3）	高雄医学大学（医学部との学部間交流）	学術のみ	
	チェンマイ大学	学術交流・学生交流（5人）	
	コンケン大学	学術交流・学生交流（5人）	
インドネシア（2）	チュラロンコン大学（医学部との学部間交流）	学術交流・学生交流（3人）	
	バンドン工科大学	学術のみ	
	アイランガ大学医学部（総合科学研究支援センターとの協）	学術のみ	
ベトナム（5）	ハノイ医科大学	学術交流・学生交流	
	ホーチミン医科薬科大学	学術交流・学生交流	
	チョーライ病院	学術交流・学生交流	
	ベトナム国立大学ハノイ校経済大学	学術交流・学生交流（5人）	
	108病院	学術交流・学生交流	
フィリピン（2）	サン・ラザロ病院	学術交流・学生実習	
	セントルークス病院	学術交流・学生実習	

（出典：国際交流協定校一覧から抜粋）

資料 2-1-3：ピロリ菌国際会議

The 2nd Meeting of Asian *Helicobacter* Study Group

Molecular Epidemiological Studies of *Helicobacter*

pylori in Asian Countries



OTTA UNIVERSITY

Time and Date

Saturday, February 6, 2010

Venue

Kyushu, Beppu Suginoi-Hotel

Kankaiji 1, Beppu, Oita, 874-0822, Japan

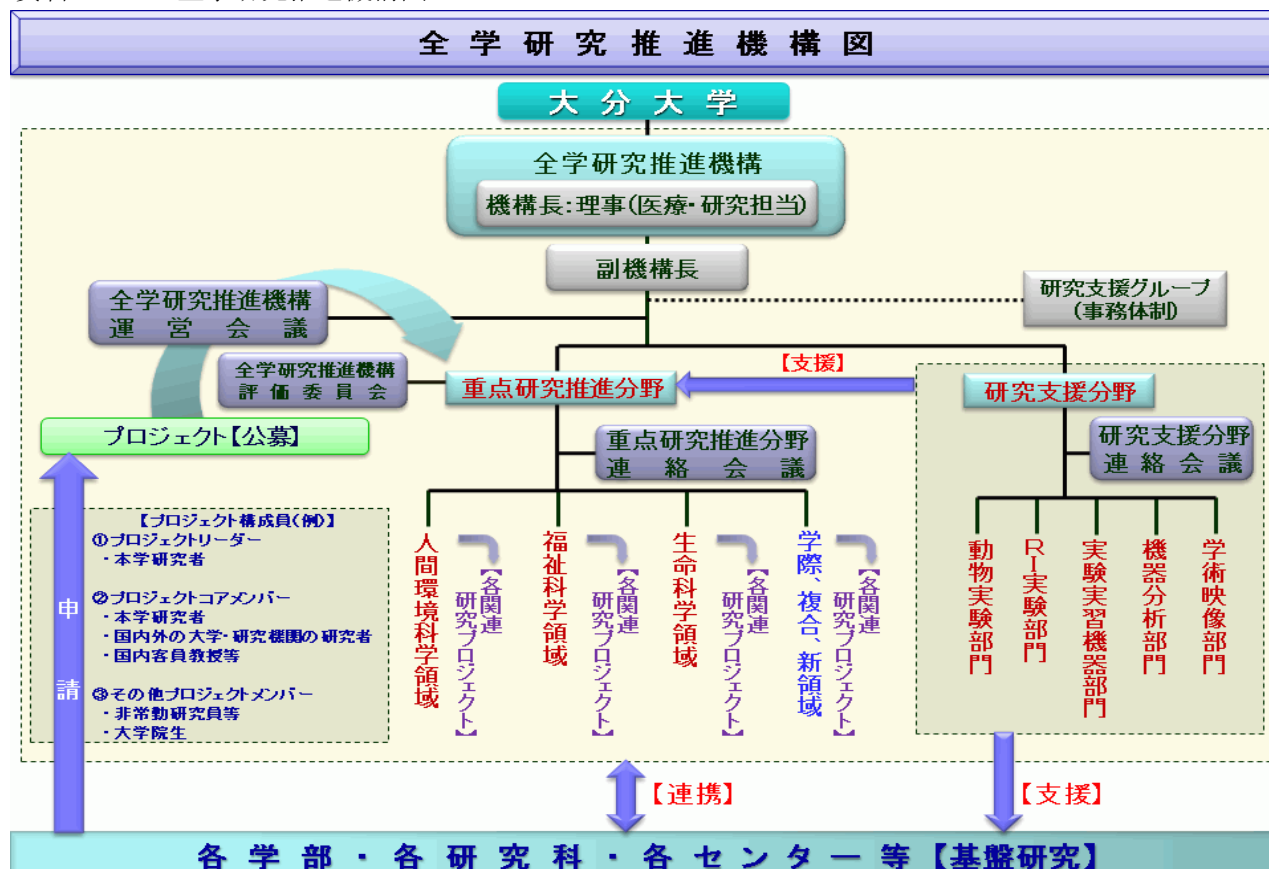
TEL: +81-(0)977-24-1141

FAX: +81-(0)977-21-0010

<http://www.suginoi-hotel.com/english/index.html>

（出典：ピロリ菌国際会議資料から抜粋）

資料 2-1-4：全学研究推進機構図



(出典：全学研究推進機構ホームページから抜粋)

資料 2-1-5：平成 21 年度大分大学ステークホルダー・ミーティング報告書

The image shows the front cover and table of contents of a report. The cover (left) has a green and white design with the title '平成21年度 大分大学自己評価にかかる ステークホルダー・ミーティング 報告書' in orange and black text. Below the title, it says '平成22年3月 国立大学法人 大分大学'. The table of contents (right) is titled '目次' and lists sections I through IV with their corresponding page numbers. The report is published by Oita University in March 2022.

**平成21年度
大分大学自己評価にかかる
ステークホルダー・ミーティング
報告書**

平成22年3月
国立大学法人 大分大学

目次

I はじめに	… 1
II ステークホルダー名簿	… 2
III ステークホルダーのご意見	… 3
1. ご意見の概要	… 3
2. 項目別のご意見と本学の方針	… 4
(1) 大分大学の理念及び目標	
(2) 教育活動	
(3) 研究活動	
(4) 施設・設備	
(5) 社会貢献活動	
(6) 学内共同教育研究施設等	
(7) 管理運営	
IV ステークホルダー・ミーティング議事概要	… 20
参考	… 24

(出典：平成 21 年度大分大学ステークホルダー・ミーティング報告書から抜粋)

資料 2-1-6：全学研究推進機構採択プロジェクト

○ 全学研究推進機構 研究プロジェクト 採択課題一覧 領域（人間環境科学領域）

番号	代表研究者	部局・職名	課 題 名
1	藤倉 義久	医学部 教授	ホルムアルデヒド代替液による組織固定法の開発
2	山岡 吉生	医学部 教授	アジアにおけるヘリコバクター・ピロリ菌を用いた環境・疫学研究
3	井上 正文	工学部 教授	木竹材料の性能向上技術構築による地球環境保全への寄与
4	アハメド カムルディン	全学研究推進機構准教授	ヒト・動物・人工物を含む環境中微生物のメタゲノム解析
			採択件数 4件

○ 全学研究推進機構 研究プロジェクト 採択課題一覧 領域（福祉科学領域）

番号	代表研究者	部局・職名	課 題 名
1	清田 晃生	医学部 助教	小児白血病長期生存例における化学療法、放射線療法の身体発達、精神発達、心理学的影響に関する検討
2	寺尾 岳	医学部 教授	自殺に影響する要因に関する多角的検討と自殺予防システムの構築
3	今戸 啓二	工学部 教授	スクワット支援装置の開発
4	衣笠 一茂	大学院福祉社会科学部研究科准教授	小地域における「コミュニティ・ソーシャルワーク」推進モデル 実験研究
			採択件数 4件

○ 全学研究推進機構 研究プロジェクト 採択課題一覧 領域（生命科学領域）

番号	代表研究者	部局・職名	課 題 名
1	穂吉 條太郎	医学部 准教授	レーザー照射によるうつ病治療研究
2	熊本 俊秀	医学部 教授	難治性神経筋疾患克服リサーチコア事業
3	白尾 国昭	医学部 教授	バイオインフォマティクスの手法を用いた癌ゲノム情報の統合と抗がん剤感受性責任遺伝子の同定
4	谷口 繁生	医学部 助教	硫化水素はインスリン分泌細胞を保護する-その作用特性について-
5	濱田 文彦	医学部 教授	Wnt シグナル伝達経路の新規制御因子 Goliath の機能解析
6	藤原 作平	医学部 教授	表皮細胞におけるエピブラキンの存在様式
7	松浦 恵子	医学部 准教授	網羅的遺伝子解析による腎癌の発癌と進展の責任遺伝子の同定
8	松尾 哲孝	医学部 准教授	放射線照射によるコラーゲン遺伝子発現調節メカニズムの解明
9	佐久間 俊雄	工学部 教授	形状記憶合金を用いた複合アクチュエータシステムの構築
			採択件数 9件

○ 全学研究推進機構 研究プロジェクト 採択課題一覧 領域（学際・複合・新領域）

番号	代表研究者	部局・職名	課 題 名
1	柿原 武史	経済学部 准教授	国際結婚及び日本在住外国人の言語使用と子供の言語教育
2	仲本 大輔	経済学部 准教授	まちづくり・むらづくりと支援 ー大分県と隣接市町村を中心としてー
3	西園 晃	医学部 教授	医工連携による新規ワクチンデリバリーシステムの開発
4	豊田 昌宏	工学部 教授	ナノ炭素材料の医療技術への適用の試みとナノ炭素材料の評価
5	劉 孝宏	工学部 教授	振動抑制の最適化と完全制振技術の構築に関する研究
6	尾澤 重知	高等教育開発センター 准教授	簡易型ビデオ収録機器を用いた学習支援システムの構築と実践での評価
7	隈本 順子	国際教育研究センター 教授	派遣留学の拡大と学生の動機づけの研究
			採択件数 7件

研究プロジェクト 採択件数

領 域	採択件数
人間環境科学領域	4
福祉科学領域	4
生命科学領域	9
学際・複合・新領域	7
合 計	24

(出典：研究協力課作成)

資料 2-1-7：科学技術総合推進費補助金交付決定通知書

21 学文科科第 6667 号
平成 21 年 7 月 1 日

国立大学法人大分大学
学長 羽野 忠 蔵

文部科学大臣 堀 谷 立

平成 21 年度科学技術総合推進費補助金交付決定通知書

平成 21 年 6 月 5 日付けで申請のあった権記の補助金については、科学技術総合推進費補助金交付要綱第 5 条第 1 項の規定により、下記のとおり交付することに決定しましたので、通知します。

記

1. 補助事業の名称
国際共同研究の推進
アジアにおけるヘリコバクター・ピロリ菌の分子生物学研究

2. 補助金の交付決定額
22,364,999 円

3. 補助金の交付の対象となる事業は、申請のあった平成 21 年度科学技術総合推進費補助事業としてその内容は交付申請書記載のとおりとする。

4. 補助事業者は、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律（昭和 30 年法律第 176 号）及び同法施行令（昭和 30 年政令第 255 号）並びに科学技術総合推進費補助金交付要綱（平成 21 年 1 月 16 日文部科学大臣決定）及び科学技術総合推進費補助金取扱要領（平成 21 年 1 月 16 日科学技術・学術政策局長決定）に従わなければならない。

5. 補助条件は、前項に定めるもののほか、次のとおりとする。
(1) 補助事業者は補助事業に要する経費の配分の変更をする場合、補助金の直接経費について、補助金の交付決定額に影響を及ぼすことなく、補助対象経費の費目の額を、交付決定額のうち直接経費の総額の 30%または 300 万円のいずれか高い額を超えて増減する場合においては、事前に文部科学大臣の承認を受けなければならない。

21.7.21
文部

(出典：科学技術総合推進費補助金交付決定通知書)

資料 2-1-8：研究者海外派遣基金助成金交付決定通知書

学振第 14 号

研究者海外派遣基金助成金（継続的若手研究者等海外派遣プログラム平成 21 年度公募）
交付決定通知書

国立大学法人大分大学学長

平成 21 年度公募
継続的若手研究者等海外派遣プログラム（継続的若手研究者等海外派遣プログラム）取組要綱第 7 条第 1 項の規定に基づき、下記のとおり交付することに決定しましたので、通知します。

平成 22 年 2 月 26 日

独立行政法人日本学術振興会理事長 小野 元二

記

1. 助成金の交付の対象となる事業等とは次のとおりであり、その内容は交付申請書に記載のとおりとする。
事業名称：東アジア分子生物学研究推進のための若手研究者海外派遣プログラム
機関名：大分大学
代表研究員：医学系研究科
2. 交付する助成金の額は次のとおりとする。
交付決定額 25,800,000 円（うち 事業実施経費 24,704,000 円、一般管理費 1,096,000 円）

3. 助成事業者は、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律（昭和 30 年法律第 179 号、以下「適正化法」という。）、同法施行令（昭和 30 年政令第 255 号）及び研究者海外派遣基金助成金（継続的若手研究者等海外派遣プログラム）取組要領（平成 21 年 1 月 27 日厚労省令第 25 号）に従わなければならない。また、その関係法令を遵守すること。

4. 助成条件は、前項に定めるもののほか次のとおりとする。
(1) 助成事業の事業実施期間：次のとおりとする。
平成 22 年 3 月 1 日～平成 25 年 2 月 28 日
(2) 助成事業者は、助成事業を遂行するため契約を締結し支払を行う場合は、公正かつ最小の費用で最大の効果を挙げること。また、経費の効率的利用に努めなければならない。
(3) 助成事業者が、この助成金による成果により利益を得た場合には、その利益の範囲内で助成金の返還を命ずることがある。
(4) 助成事業者が、取得経費等を処分することにより、収入があり、又は収入があると見込まれるときは、交付した助成金の全部又は一部に相当する金額を本会に寄付させることができる。
(5) 助成事業者は、助成事業の実施に当たり、法令、通知及び各研究機関等で定められた規定等により、承認・届出・確認が必要となる場合は所定の手続きを行わなければならない。
(6) 助成事業者は、助成事業で派遣される者に対し、派遣先において研究活動に専念させるよう適切な事業の実施に努めなければならない。
5. この交付決定の内容又はこれに付した条件に不届があることにより、助成金の交付の申請を取り下げようとするときは、本通知書受領の日から 14 日以内にその旨を記載した書面を本会に提出すること。

(出典：研究者海外派遣基金助成金交付決定通知書)

資料 2-1-9 : 国際交流・学術振興基金の見直しの状況

- 平成 20・21 年度の予算額及び平成 22 年度からの予算額

事業の名称		事業の内容	予 算
国際交流事業	学生の海外派遣・留学生の受入れ事業 注 1)	本学に在学する外国人留学生以外の学生を、外国の大学に派遣するための助成	210 万円以内
		本学に在学する外国人留学生で、経済的に困窮する私費外国人留学生に対する助成	228 万円以内
	研究者等の海外派遣事業 注 1)	海外での学術研究集会に出席し発表、報告等を行う研究者等及び事務職員の海外派遣研修等への助成	100 万円以内
	外国人研究者等の招へい事業 注 1)	滞在する研究者等にかかる助成	90 万円以内
	国際研究集会等の開催事業 注 1)	本学が主催又は共催する国際研究事業への資金助成	20 万円以内
	その他国際交流・学術振興に関する事業 注 1)	協定校との交流実施にかかる経費の助成、外国に対する大学広報にかかる経費の助成、その他学長が必要と認めた事業への助成	170 万円以内 162 万円以内
学術振興事業	学術に関する研究の推進事業 注 1)	学会開催、学術講演会等への助成	82 万円以内
	地域社会との学術交流事業	大学開放行事への助成	
	その他学術振興に関する事業 注 1)	その他学術振興に関する事業で学長が特に必要と認めた事業への助成	

注 1) 医学部を除く 予算の上限額 ~~900 万円~~ 600 万円 (医学部を除く)

※二重取消し線及び朱書きは、平成 22 年度からの変更箇所

- 大分大学国際交流・学術振興基金の受入 平成 21 年度 360,000 円

(出典：国際交流課作成)

資料 2-1-10 : 平成 20・21 年度の経済学部久保奨学基金の予算額

事 項		事業の内容	予 算
国際交流事業	I B P 参加学生への補助	インターナショナル・ビジネス・プログラム(IBP)に登録し、派遣留学生として海外留学する者のうち、留学期間に関して学内外の他の奨学金を受けていない者	384 万円(H20) 300 万円(H21)
	海外留学の学生補助	派遣留学生として海外留学する者のうち、「IBP 学生の留学期間中の奨学金」の対象以外の者で、留学期間に関して学内外の他の奨学金を受けていない者	144 万円(H20) 120 万円(H21)

(出典：国際交流課作成)

資料 3-1-1：福祉のまちおこし研究事業 平成 21 年度事業報告

<フィールド1> 別府市中心市街地 倉持香苗

朝市とカフェによる交流促進とコミュニティ活性化
 カフェとサロンの社会実験と参与観察、インタビュー調査
 まちなかカフェ はまわきサロン 浜脇朝市 べっふ優ゆう子ども朝市
 まちなかカフェ報告会（3月10日 19：00～）
 協力：別府市中心市街地活性化協議会、別府市

<フィールド2> 高齢化が進む郊外住宅団地 富士見が丘団地 松ヶ丘団地

脇野幸太郎 イ・サンユン
 障害者施設と自治会の共催での朝市による交流促進とコミュニティ活性化、
 参与観察とインタビュー調査 @松ヶ丘
 福祉ネットワーク@富士見が丘
 協力：大分市松が丘連合自治会、富士見が丘連合自治会

<フィールド3> 超高齢化が進む農山村地域 大分市竹中校区

イ・サンユン 脇野幸太郎
 ヒアリング調査と全戸アンケート調査による実態把握と課題抽出
 竹中校区地域生活基礎調査結果に関する報告会
 □期日：2010年2月27日（土） 14：55～16：40
 □場所：竹中公民館
 協力：竹中自治会、大分市

<フィールド4> 郊外社会福祉施設所在地域 別府市亀川地区

岡達哉 倉持香苗
 ヒアリング調査と既存アンケート調査による実態把握と課題抽出

<共同研究>

韓国尚志大学 宋鄭府 教授 他
 共同研究会の実施（11月24日）
 協力：大分県社会福祉協議会・大分県社会福祉介護研修センター他

英国オックスフォード大学テレザ・スミス講師（前研究科長）他

日 程：平成 22 年 2 月 5 日（金）～2月6日（土）

場 所：教養教育棟 2 F 27 講義室

報告者・コメンター

英国 テレザ・スミス（オックスフォード大学 前研究科長）
 ジョージ・スミス（オックスフォード大学 元研究科長）
 藤原裕子（オックスフォード大学 修士課程）
 日本 武川正吾（東京大学教授）
 足立基浩（和歌山大学准教授）
 椋野美智子（大分大学福祉科学研究センター教授）他

<関連>

大分別府都市圏地域公共交通総合連携計画 椋野美智子・大井尚司・脇野幸太郎
 歩行車の高機能化に関する研究 池内秀隆 岡 達哉
 高齢者福祉海外先進事例調査（3月）奥田憲昭・岡 達哉

資料 3-1-2 : 大分大学「平成 21 年度 MOT (技術経営) 講座」一覧

区分	開催日	講 座 名 等	講 師
		キーコンセプト	
1	9 月 21 日 (金)	「MOT 型」中小企業	大分大学経済学部 教授 松尾 純廣 氏
		MOT の地場企業モデル	
2	8 月 28 日 (金)	MOT と中小企業 1	(株)テクノ・インテグレーション代表取締役 大分大学客員教授 出川 通 氏
		中小企業のイノベーション	
3	9 月 4 日 (金)	MOT と中小企業 2	(株)テクノ・インテグレーション代表取締役 大分大学客員教授 出川 通 氏
		中小・ベンチャー企業の MOT 事例	
4	9 月 11 日 (金)	企業間連携	大分大学経済学部 教授 松尾 純廣 氏
		大手との連携手法	
5	9 月 18 日 (金)	工場見学・HOKS	—
6	9 月 18 日 (金)	生産管理システム	大分大学経済学部 教授 松尾 純廣 氏
		5 S という生産システム	
7	9 月 25 日 (金)	サービスマーケティング	大分大学経済学部 教授 松尾 純廣 氏
		付加価値マーケティング	
8	10 月 2 日 (金)	技術戦略、B to B マーケティング	群馬大学共同研究イノベーションセンター 大分大学客員教授 伊藤正実 氏
		中小企業の開発手法	
9	10 月 16 日 (金)	産学連携	群馬大学共同研究イノベーションセンター 大分大学客員教授 伊藤正実 氏
		産学連携の使い方	
10	10 月 23 日 (金)	技術による利益創出	安部中小企業診断士事務所 安部 博文 氏
		技術を利益に変える手法	
11	10 月 30 日 (金)	アントレプレナーシップ	安部中小企業診断士事務所 安部 博文 氏
		MOT と起業家精神	
12	11 月 6 日 (金)	知財戦略	群馬大学共同研究イノベーションセンター 大分大学客員教授 伊藤正実 氏
		知的財産の使い方	

(出典：社会連携推進課作成)

資料 3-1-3：豊の国ものづくり展開催概要

「豊の国ものづくり展 ～産・学・官共同研究から生まれた逸品～」開催概要
大分県内 8 大学等による産学官共同研究事例発表

イベントの主旨
地域連携研究コンソーシアム大分を構成している大分県内 8 大学等と民間企業との共同研究により開発された「大分県の技術・商品」を、大分県内はもとより日本全国または世界に広げようとしていることを県内の方々に発表・展示して、産学官連携戦略展開事業（戦略展開プログラム）の取り組みへの理解促進を図り、大分のものであり、大分への発信やさらなる県内の産学連携、研究・開発の促進を図ります。
また、その取り組みの一事例として、産学共同研究で開発された技術・商品が、現在、社会の関心の高いインフラエンジニアリング分野に有効なことも講演・セミナー等を通して発表します。

日 時	平成 21 年 10 月 22 日（木）10 時～16 時 30 分
会 場	大分全日空ホテル オアシスタワー 5F「孔雀の間」
内 容	○展示会 地域連携研究コンソーシアム大分を構成している県内 8 大学等の研究分野と民間企業との共同研究により開発された商品を紹介 各大学等・企業の取組みをセミナー形式で発表 産学連携研究に関する相談会・商談会の実施 ゲストによる講演会 ○セミナー ○相談会・商談会 ○講演会

参加対象	一般市民、企業、大学、学生
主 催	大分合同新聞社・地域連携研究コンソーシアム大分
後 援	大分県・(有) 大分 TLO
協 賛	ダイキン工業㈱
協 力	㈱エートス、大分市水産物流通加工協議会、杵築市、クックヒルファーム、 ㈱タマカガエ、後藤機器㈱、株式会社ミックス㈱、三和酒造㈱、 昭和電機システム㈱、株式会社テクノ、㈱つえエービー、緑島食品工業㈱、 ファームデック㈱、ミヤシシステム㈱、八幡酒造㈱

※：地域連携研究コンソーシアム大分
(大分大学 大分県立看護科学大学 大分県立芸術文化短期大学 大分工業高等専門学校
日本文理大学 別府大学 別府大学短期大学部 立命館アジア太平洋大学)

お問い合わせ：「豊の国ものづくり展 ～産・学・官共同研究から生まれた逸品～」事務局
◇ 大分合同新聞社 コミュニケーション開発室 担当：高屋
住所：870-8805 大分市府内町 3 丁目 9 番 15 号 TEL：097-538-9646
◇ 国立大学法人大分大学 インノベーション（機構）サーチ・フアクトリー 担当：二宮・坂本
住所：870-1192 大分市大字且野原 700 番地 TEL：097-554-7021（代表）

（出典：豊の国ものづくり展開催概要から抜粋）

資料 3-1-4：産学官連携戦略展開事業（戦略展開プログラム）シンポジウム

平成 21 年度文部科学省

産学官連携戦略展開事業
（戦略展開プログラム）シンポジウム
～おおいのイノベーション創出拠点の目指すもの～

■日時：平成 22 年 3 月 26 日（金）13:00～17:00
■場所：大分全日空ホテル オアシスタワー

講演

「おおいの」における「学」からのイノベーション創出への取り組み
・地域経済型研究開発プロジェクトへの取り組み
・大分大学工学部電気電子工学科教授 堀岡 正人
・医工連携推進のための取り組み
・大分大学工学部応用化学科教授 豊田 昌宏
・未利用おおいの資源の活用 ― コスメットと大豆成分 ―
・大分大学工学部応用化学科准教授 石川 雄一

パネリストディスカッション

「おおいのイノベーション創出拠点の目指すもの」

コーディネーター 大分大学 副学長（国際・社会連携担当） 田中 充	パネラー 大分県 労働部長 米田 健三 大分県 LSI クラスタ形成推進協議会理事 丸井 彰 大分県自動車関連企業会会長 岡本 晴美 大分県技術研究会代表 堀岡 正人 (株) つまエービー代表取締役 長谷部 建義
---	--

コメンテーター
大分大学工学部応用化学科教授 豊田 昌宏
大分大学工学部応用化学科准教授 石川 雄一

問合せ・申込み先
大分大学
大分県
地域連携研究コンソーシアム大分
大分県 LSI クラスタ形成推進協議会
大分県自動車関連企業会
大分県技術研究会
電磁応用技術研究会

アクセス（JR 大分駅から）
JR 大分駅→大分全日空ホテルオアシスタワー・タクシー乗車時間 / 約 2～3 分・徒歩 / 約 8 分
※JR 大分駅「北口」（1 番ホーム南口）よりお越しください

（出典：産学官連携戦略展開事業（戦略展開プログラム）シンポジウムポスター）

資料 3-1-5 : 学生・研究生等の派遣・受入状況

○ JICA 奨学生及び JICA 青年研修事業研修生の受入

	平成 20 年度	平成 21 年度	備 考
経済学部	1 名	1 名	奨学生 (ガーナ)
工 学 部	—	1 名	研修生 (ベトナム)

○ JICA 調査団員派遣及び研修員の受入

	平成 20 年度	平成 21 年度	備 考
医学部 (派遣)	3 名	7 名	ドミニカ共和国, セルビア共和国
医学部 (受入)	2 名	6 名	ドミニカ共和国, エトリア

○ 外国人客員研究員の受入

	平成 20 年度	平成 21 年度	備 考
医 学 部	15 名	15 名	

○ JICA 食の安全確保のための人畜共通感染症対策コースに係る視察

平成 22 年 2 月 23 日 (火) 10:00~12:00 研修員 11 名

○ 国別研修 (ミャンマー) 「マラリア対策」に係る研修

平成 21 年 10 月 30 日 (金) ~ 11 月 10 日 (火) 研修員 2 名

○ 学生の派遣

	平成 20 年度	平成 21 年度	備 考
医 学 部	8 名 (9/14~9/27)	3 名 (9/6~9/19)	医学科 (フィリピン国立サンラザロ病院)

○ 学長裁量経費の措置

	平成 20 年度	平成 21 年度	備 考
医 学 部	サン・ラザロ病院での国際・熱帯 感染症看護実践教育プログラム	国際医療活動への体験学習事業	

(出典: 国際交流課調べ)



大分大学 トピックス

大分大学長から教職員に表彰状を授与

本学は、平成22年3月17日に、平成21年1月から平成21年12月までの期間を対象とし、顕著な功績のあった教職員を対象に学長表彰を行いました。

平成19年度から始まり3回目となる今回の学長表彰では、業務上特に顕著な功績があった3名の教職員(医学部1名,工学部2名)が表彰されました。

表彰式終了後には、学長室で和やかな雰囲気の中、学長と被表彰者の懇談会が行われました。

なお、各氏の受賞理由等は以下のとおりです。

所属	職名	氏名	推薦理由(概要)
工学部	准教授	田上 公俊	15th Small Engine Technology Conferenceにて (発表論文98件中)最優秀論文賞を受賞。
工学部	准教授	天尾 豊	先端錯体工学研究会奨励賞を受賞。 (「金属錯体分子を駆使した光駆動型有機分子変換プロセスの 開発に関する研究」)
医学部	教授	森 宣	ドミニカ共和国中米カリブ地域画像診断技術向上(第3国研修) プロジェクトの最終 時評価において、極めて高い評価が与え られた。



学長を囲み記念撮影



学長と被表彰者の懇談会の様子

戻る